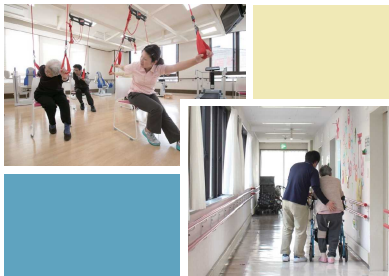




ともに働く職場紹介 vol.1

障がい者雇用に取り組む企業を「ともに働く職場」として紹介するコーナーです。第1回は、積極的に障がい者雇用に取り組んでいる大分豊寿苑さんをご紹介します。

社会医療法人 敬和会
ほうじゅえん
大分豊寿苑



介護老人保健施設「大分豊寿苑」は、高齢者の在宅復帰に向けた自立支援介護の実践を目標にした施設で、モットーは「いつもしいきいき」。利用者とのコミュニケーションを何より大切に、運動や嚙下リハビリ、認知症ケアなど多職種のチームで取り組んでいます。また通所では、個別訓練のほかに転倒予防などの集団訓練にも特化。訪問では利用者の退所、退院後もスムーズに生活できるよう専任スタッフが細かく相談を行いながら、訓練のほかに生き甲斐活動までケアしています。

誰もが平等に笑顔で働ける
環境づくりを目指して

創刊にあたって



大分県知事 広瀬 勝貞

障害者雇用促進法では、常用労働者数の一定割合（法定雇用率）以上の障がい者を雇用することが事業主の責務とされています。制度創設当初は身体障がい者のみが対象でしたが、平成10（1998）年には知的障がい者が、続いて平成30（2018）年からは精神障がい者が雇用対象に加えられました。またこの間、法定雇用率も段階的に引き上げられ、令和3（2021）年3月には2.3%とされたところです。

本県では、大分県長期総合計画「安心・活力・発展プラン2015」において、「障がい者雇用率日本一」の実現を目標に掲げ、障がい者雇用アドバイザーが企業や事業所を直接訪問し、障がい者一人ひとりの特性と職場環境に応じた仕事の切り出しを助言しながら、就職のマッチングや職場への定着をさめ細かく支援しています。

本県の障がい者雇用率は、全国的にみて高い水準にあります。知的障がい者や精神障がい者の雇用率は全国中位にとどまっており、一層の雇用促進が必要です。

こうした中、今般、「大分県障がい者雇用促進ジャーナル ともに働く」を創刊することとしました。このジャーナルでは、企業や支援機関における障がい者雇用の先進事例をはじめ、職場で生き生きと働く障がい者の思いや姿など、様々な情報を発信していきますので、経営者の方々をはじめ、人事担当者や職場の皆様にもご参考としていただき、障がいのある方が活躍できる職場づくりの一助となるよう期待しています。

本県では、引き続き、障がい者雇用の推進に全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご協力をお願いいたします。





佐田聡さん -Satoshi Sada-
メンタル面の不安を抱えながら、A型事業所「ハートコープおおいた」で作業訓練を重ね、昨年、介護老人保健施設「大分豊寿苑」に入社。多くの関係機関のサポートを得て一般就労という目標を果たしました。

一病気が教えてくれた優しさは、 新しい人生への道標—



昨年、大分豊寿苑に入社した佐田聡さん。それまでは、就労継続支援A型事業所「ハートコープおおいた」で椎茸栽培などの作業を通じ、人とのコミュニケーションの取り方やメンタル面の訓練を重ねていました。次第に、15年以上携わっていた介護の分野で再就職したいという目標を持つようになり、周囲のサポートを得ながら就職活動を行い、その夢をかなえました。

入社後は、物品補充や夕食の配膳業務などを担当。「佐田さんは本当にきっちり仕事をこなしてくれて、私たちの気付いていない事も気付いてくれるので職員たちも頭が下がる思いです。苑内での信頼関係も非常に厚いですし、今はもう頼りきっています(笑)」

丁寧な仕事ぶりにより厚い信頼を置かれ、充実した毎日をご過ごしているという佐田さん。これまでの経緯と職場や生活面での様子をお聞きました。

■大分豊寿苑を希望した理由を教えてください

「ハートコープおおいた」に入所した頃は病気が回復傾向にある途中でした。最初は続けていく事が厳しいかな?とも思いましたが、管理者の松尾さんが親身になってくれたおかげで無事に一般就労※することができたと思います。体調が回復した事も大きかったですね。元々、介護職だったのでまた戻りたいいなという気

お互いを思いやり
働くということ

大分豊寿苑を有する社会医療法人敬和会では、2016年よりダイバーシティセンターを設立。元々行っていた女性雇用の推進に加え、障がい者や外国人、高齢者の雇用にも積極的に取り組んでいます。近年の働き方改革により労働生産性を向上させ、ヘルスケアの分野において更なる成長へ繋がるよう努力しています。



現場での大きな役割を担っている反面、入社後すぐは現場に溶け込めるように意識をして、本人や職員にも声かけをする事は必要だと言う小野さん。「また、障がいの度合いにより業務の調整や理解が難しい時もあるので声をかけ、方向修正をする調整役が必要かもしれませんが、それにより私たちも学ぶことは多いんですよ。」

現場の人たちの気遣いや、定着支援へ向けた関係機関のフォローの下、障がい者雇用の実現は成り立っていると言えます。少しのデメリットは、大きなメリットへと変わる。障がい者雇用は企業にとっても大きな成長への架け橋となるのかもしれません。

者雇用に対する意識が高いのも大分豊寿苑の特色のひとつ。「法人で推進しているのはもちろんですが、私たちは元々相手をケアする職種。相手を理解するという面では障がい者の方たちの特徴や良さを知ることができるので、そこは強みだと思えます。」そう話すのは、看護介護師長の小野幸代さん。「私たち看護師や、介護福祉士などの間には多くの仕事があるんですね。例えば患者さんの退院後の清掃やシーツ交換、物品の補充など様々です。でもその仕事を受けてくれるだけで私たちは専門職として利用者さんとかかわり時間が持て、本当に助かることばかりです。周辺業務の充実が、施設の業務改善にも繋がっています。障がい者雇用が現場での大きな役割を担っている反面、



誰も気付かない細かな所でケアできる気配りの人

時々大変なこともあります。利用者さんから「ありがとう」とか、職員さんからも「今日は佐田さんがいてくれて良かった」と言われると本当にうれしいです！そのために頑張っていると言っています

■働く中で一番嬉しいと感じるのはどんな時ですか?

以前は朝から夕方までの勤務でしたが、今は14時から19時までの5時間勤務。午前中に自分のコンディションを整えられるようになって、自分の体調管理をできるようにになりました。万全の体制で無理なく勤務できるようになって良かったです。

■就職後、生活面の変化はありましたか?

持前からこちらを紹介してもらいました。「ハートコープおおいた」の存在はとて大きかったです。

※「一般就労」とは、労働基準法や最低賃金法に基づく雇用関係により企業等で働くことをいう。「福祉的就労」に対する用語として使用される。



理解、信頼し合える仲間の存在は佐田さんの大きな財産です。

■これからの目標を教えてください

ただただ健康に仕事を続けられたらと思っています。また、誕生日に職場から図書カードを頂いて感激しました。その外袋は今も保管しています。これから何十枚も重ねていけるように頑張ろうと思っています。

どんな時も、たとえ自分にゆとりがない時であっても相手に対する思いやりは大切にしたいという佐田さん。これまでの病氣療養の中で、心に誓ったことだと言います。病氣にならなければ気付かなかった優しさは今、たくさんの人たちに笑顔の花を咲かせています。

大分豊寿苑の理念

生命を思い、地域の社会の中で大きく和合し共に生きる

いつもいきいき大分豊寿苑



一つひとつ丁寧に仕事を行い、利用者さんの毎日を支えています。

第5回 日本ヘルスケアダイバーシティ学会 次世代医療人のダイバーシティ

2021年11月3日(水) 10時～16時
会場：J:COM ホルトホール3階大会議場

- 特別講演「SDGsとヘルスケア」
- シンポジウム「次世代に繋がる医療人のダイバーシティ」
- パネルディスカッション

参加費：事前――5,000円
当日――6,000円
法人会員――4,000円

問い合わせ：日本ヘルスケアダイバーシティ学会事務局 TEL:097-522-3533



ダイバーシティ推進部の相談員や支援機関の方との連携が、障がい者雇用の大きなサポートに。

社会医療法人 敬和会 大分豊寿苑 〒870-0131 大分市大字皆春 1521 番地の 1 ☎097-521-0110
<https://keiwakai.oita.jp/hojuen/>